

必要な茎数

適量の肥料

生産者通信

NPO法人 米ニケーションセンター 定価 100円(送料込)

雑草が生えても収量は確保できる！

3・11の大震災とそれに伴う福島第一原発事故、新潟福島豪雨、そして今回の台風12号による水害と次々に災害が続いていきます。その度に多くの尊い命が失われ、心痛みます。いずれの災害でも大きな被害を受けるのは農林漁業者です。生業そのものが自然の恵みに依拠しているのですから当然かもしれません。普段は忘れてしまいがちな自然の力の偉大さに改めて気づかされます。

にもと心配する気持ちがあつたと思えますが、安心して収穫作業に専念できるのではないのでしょうか。

さらに、品質の悪かつた昨年産に比べて、早生稲では今年も乳心白粒等の発生も少なく、コシヒカリの品質にも期待がもてそうです。当柏崎・刈羽地域では収量も悪くないとの声が聞かれていますので、新潟にとつては良い秋になりそうです。昨年度の反省を踏まえての県の指導が功を奏したと言えるかも知れません。さて、春先に「草との共生」について少し触れさせていただきましたが、今回はその追加報告をさせていただきます。

県内の収穫期も最盛期を迎えています。県内でも局所的には汚泥等にセシウムの汚染が確認されていますが、幸にして米への残留は県の調査等でも現在のところ見つかっていません。お互いが万が一

ではありませんが、県認証の面積も飛躍的に増加するという成果を上げることができました。実質2年目の今年も「有機稲作の技術向上」を基本目標に、特に水田雑草対策を中心に3回の圃場巡回をおこなってきました。

特に3回目の8月17日の圃場巡回は、それまでの成果としての最終的な稲姿が確認できるものと期待して行きました。

カラー写真でなく、解りづらいかも知れませんが、最も特徴的な圃場の写真をご覧いただきたいと思えます。

【写真①】



オモダカ、コナギ、クログアイが田面をびっしりと覆ってしまつていますが、しっかりと分けつ茎を確保して、着粒数の多い立派な穂を付けており、葉色も維持できそうです。最も有機の経験年数の長い生産者の水田です。

【写真②】



写真①に比べて、やや雑草の繁茂が多いようです。しかし、茎数は極端に少なく穂も小さくて葉色も落ち、明らかに雑草に負けてしまった稲です。今年からJAS有機に取り組んだ生産者の水

田です。【写真③】



わずかにコナギが見える程度で、ヒエ、その他の雑草もほとんど見あたらず、一見慣行田と見間違える程に雑草対策に成功した水田です。実は私の田ですが、目標収量に対して茎数が足りず、葉色も落ちてしまっています。明らかに肥料不足です。例年同様の施肥量と栽培管理でしたので、その原因究明はこれから課題です。

《裏面に続く》